

1 研究主題

「組織力を高め、人を育てる学校経営」=第17次研究(2年次)

【視点①】意図的に全体を導くためのリーダーシップ

【視点②】計画的に組織・システムを運用するためのマネジメント

2 研究推進の概要

- (1) 第17次研究の2年次として研究に取り組んだ。推進計画では、研究の目的を「学校の教育力の向上（教育の質を高める）」として取り組んできている。3年間の長期的な視野で『組織力を高め、人を育てる学校経営』を充実させることにより、学校の教育力の向上を図り、これらの取組を通して、「学力向上」と「人材育成（管理職候補者の育成）」を目指すこととしている。
- (2) 年度当初に「研究の手引き」を作成し、研究のねらいや推進方法を具体的に示し、共通理解を図った上で計画的に研究を推進した。
- (3) 町村校長会ごとに研究主題に沿って研究に取り組み、管内4つの「ブロック研究会」でその成果や課題を発表・協議し、研修を深めた。
- (4) 「後志小中学校長会研究大会」を開催（会同：半日日程）し、2ブロック2町村が提言を行い、全体・グループで協議を行った。
- (5) 第17次研究（2年次）の活動内容や研究の成果と課題を整理し、研究のまとめとして「研究紀要」を作成した。

3 研究の成果と課題

【成果】

- ・研究大会のグループ協議において、協議の柱を『「人材育成」「組織力向上」に向けた戦略的な経営のあり方』とし、マネジメントの指標にあるアセスメントやファシリテーションを意識した協議を進めることができた。
- ・後志管内においても義務教育学校の開設や小中分離型の小中一貫教育実施に向けての動きがあり、それを踏まえた提言発表がなされた。「今ある教育の状況を子どもや保護者、地域の視点で見直すなど、現状を把握しての情報収集と分析を行い、関係者間で共有を図ることが大切である。」との提言を受け、その後のグループ協議に生かすことができた。

【課題】

- ・ブロック研究から研究大会への流れについてさらなる充実と改善に努め、学校の教育力向上を目指す学校経営のあり方を深め、研究のまとめに取り組むこととする。
- ・学校教育を取り巻く情勢の流れが加速している中、3年次計画での研究ではその流れに追いつかない状況も考えられる。研究サイクルの見直しについても検討していかななくてはならない。
- ・数年後には義務教育学校の開校により、学校数が減少するブロックが出てくる。研究ブロックの見直しも含め、体制を検討する時期に来ている。

1 研究主題

組織力を高め、人を育てる学校経営」=第17次研究(3年次)

【視点①】意図的に全体を導くためのリーダーシップ

【視点②】計画的に組織・システムを運用するためのマネジメント

2 研究主題設定の趣旨

本研究推進計画の研究の最終的な目的は「学校の教育力の向上（教育の質を高める）」である。そのために「令和の日本型学校教育」の考え方を基盤に、学習指導要領を具体化・具現化し、未来をたくましく生きるために必要な子どもたちの資質・能力を伸ばす教育を実現していきたい。校長に求められる資質能力を一層高めるため、後志管内の校長同士が学び合い、3年間の長期的な視野で『組織力を高め、人を育てる学校経営』を充実させることにより、学校の教育力の向上を図り、後志管内教育の充実と発展を目指す。

3 研究内容

- (1) 第17次研究推進計画《3年次》の研究推進（※3年次計画）
- (2) 組織的な研究推進のための研究組織と研究体制の確立
- (3) 町村・ブロック・管内全体の系統性のある研究の推進
- (4) 道小・道中の研究内容との関連性を重視した研究の推進
- (5) 全国・全道研究大会の提言のためのプロジェクトチームの設置

4 研究推進計画

- (1) 「研究の手引き」「研究紀要」の発行
- (2) 町村校長会単位の研究推進
- (3) ブロック研究会の開催〔9～10月〕
- (4) 管内研究大会の開催〔令和7年10月21日（火）：倶知安町〕
- (5) 全道・全国大会への積極的参加
- (6) プロジェクト活動の推進
- (7) 第18次研究推進計画策定

5 研究組織

- (1) 研究組織
 - ① 管内校長会研修部
 - ② ブロック研究推進委員会
 - ③ 町村校長会
- (2) ブロック
 - 南ブロック（島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町、ニセコ町）
 - 山麓ブロック（真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、倶知安町）
 - 岩宇ブロック（岩内町、泊村、共和町、神恵内村）
 - 北ブロック（積丹町、仁木町、赤井川村、古平町、余市町）

6 その他